

§ 2.7 環境グループ活動記録

堀中 新一（幹事）

環境グループは、SCE-Net で最初に発足したグループで、2000 年 10 月にグループが結成され、5 年 6 ヶ月後の 2006 年度末をもってその活動を終えた。以下、その活動を年次総会報告により振り返る。なお、行数圧縮の為、一部の書式等の変更、一部の文章の省略を行っている。

1. 環境グループの発足

2000 年 10 月 3 日、綜研化学（株）会議室で行われた第 9 回 SCE-Net 幹事会において、SCE-Net が「何が出来るかについてグループを編成し具体的にその内容を検討して決める」こととなり、その一つとして「環境マネージメント」を活動の主体とするグループの設置が決定され、中島代表幹事より、事務局が選任した 12 名の会員に発足会議への参加の呼びかけを行った。

会合は、2000 年 11 月 14 日に綜研化学(株)会議室で「会員(環境分野)懇談会」として開催され、7 名が出席して、活動方針、活動内容などの話し合いを行った。これが、実質、第 1 回環境グループ月例会となった。

以下、2001 年度から 2005 年度までの SCE-Net 総会において報告、承認された「活動報告」である。なお、2006 年度のは、総会未報告資料である。

2. 2001 年度の活動（世話人 堀中新一）

- 1) グループ構成員 発足時 12 名、途中参加 2 名、途中退会 1 名 現在 13 名（休止中 1 名）
- 2) 例会開催（第 2 回～第 5 回、第 7 回～第 9 回 化学工学会応接室または会議室）

2001 年 5 月 28 日（出席者 4 名）、7 月 5 日（出席者 7 名）、10 月 4 日（出席者 8 名）11 月 15 日（出席者 8 名）、12 月 21 日（綜研化学(株)会議室 出席者 6 名）、2002 年 2 月 8 日（出席者 4 名）、3 月 29 日（出席者 6 名）、4 月 16 日（出席者 4 名）

3) 主な活動

① 環境分野講演メニューの作成

ネットが提供できるメニューの一つとして、講演、講習などの教育活動がある。

我々がすぐにでも出来るものとして、6 名 6 件の講演内容シートを準備した。これを充実することによって、ネット提供のメニューの一つとして使用できることを期待する。

② ISO14001 取得企業フォローアッププログラムWGの設置

取得支援業務はすでに飽和状態であることから、取得した環境 ISO を真に企業経営に役立てることを狙って、ネット独自のプログラムを作成することを目的としたワーキング・グループを立ち上げた。関連して、企業環境報告書の監査業務への関与の可能性を探っている。

③ PRTR に対する支援業務の可能性調査

すでに、国、都県の法規等が施行されているので、都県と事業者での実施段階での作業に関

与できるかどうかを探っている。

④ 顧客向けプレゼンテーション資料の作成

とりあえず、会員の保有資格一覧表を作成した。

ネットの能力をどのようなかたちで表して、顧客に提示するかを検討するかを、ネット全体で取り組む必要がある。

⑤ 顧客ニーズの把握

企業会社訪問を企画したが、断念。

⑥ 産学官公的機関等との連携

個人ベースで化学工学会環境部会へ参加した。

3. 2002 年度の活動（世話人 堀中新一）

1) グループ構成員 年初 11 名 途中参加 2 名 現在 13 名（休止中 1 名）

2) 例会開催（第 10 回～第 19 回 化学工学会応接室、会議室）

2002 年 4 月 16 日（出席者 4 名）、5 月 21 日（出席者 5 名）、6 月 18 日（出席者 2 名）、7 月 16 日（出席者 6 名）、9 月 10 日（出席者 6 名）、10 月 22 日（出席者 6 名）、11 月 21 日（出席者 6 名）、12 月 11 日（出席者 7 名）、2003 年 1 月 21 日（出席者 5 名）、2 月 18 日（出席者 5 名）、3 月 11 日（出席者 4 名）

【評価と反省】例会テーマが、ISO14001 と PRTR に重点が置かれすぎたため、グループとして拡がりに欠けたと思われる。第 19 回より個人ミニ・レクチャーを取り入れた。

3) 主な活動

① ISO14001 取得企業フォローアッププログラムWG

【評価と反省】活動内容の提案書作成と検討会以降進んでいない。平行して進める予定であった監査法人との提携が、情勢の変化からしばらく静観することとなったことが一つの原因である。次年度に再構築を図ることとする。

② PRTR に対する支援業務の可能性調査

【評価と反省】PRTR 調査実施段階以降にどんな業務発生があるのかを探っていたが不明であった。3 月 20 日の集計結果発表を受けてどのような動きが出るかを探ることとしている。

③ 家電リサイクルセンター見学会の開催（担当 曾根邦彦）

第 1 回 2002 年 10 月 8 日エヌケーケートリニクス(株) 参加者 7 名

第 2 回 2002 年 12 月 12 日 東京エコリサイクル(株) 参加者 6 名

【評価と反省】参加者にとって久々の現場であり、大きな収穫があった。せっかくの機会であったが、参加者が予想より少なかったのは残念である。

④ 産学官公的機関等との連携

ちょうど今年度に化学工学会環境部会が発足したのを機に、5 名が個人参加した。

【評価と反省】拡大幹事会にも積極的に参加した結果、SCE・Net の存在を示すことが出来、個人として大会運営にも参加することとなった。

⑤ 法人会員等へのサービス

【評価と反省】見るべきものなし。◇

4. 2003 年度の活動（世話人 堀中新一）

- 1) グループ活動方針：主として、環境分野全般の情報交換と相互啓発の場とする。この場でのグループ員発案によるプロジェクトについては、SCE・Net メンバー全員に呼びかけて独立した別途ワーキング・グループを編成して活動する。環境グループは、環境関連のワーキング・グループの活動を支援する。
- 2) グループ構成員 年初 13 名（休止中 1 名）、途中退出 1 名、途中参加 1 名、現在 13 名（休止中 1 名）
- 3) 例会開催（第 20 回～第 29 回 化学工学会応接室または会議室）
2003 年 4 月 15 日（出席者 8 名）、5 月 13 日（出席者 6 名）、6 月 10 日（出席者 6 名）、7 月 8 日（出席者 4 名）、9 月 9 日（出席者 6 名）、10 月 24 日（出席者 7 名）、12 月 3 日（出席者 7 名）、2004 年 1 月 13 日（出席者 6 名）、2 月 17 日（出席者 5 名）、3 月 9 日（出席者 6 名）
- 4) 主な活動
 - ① 定期月例会開催と環境関連施設等の見学会開催
・10 回開催 平均 6 名参加 ・見学会の開催はなし
 - ② 活動ポイントとなるプロジェクトに対応するワーキング・グループ化および活動支援
・ISO14001 取得企業フォローアッププログラムWG——参加者多忙のため解散
・PRTR に対する支援業務の可能性調査——需要見込み少ないと判断して中止
・リスク マネジメント——撤回
 - ③ 産学官公的機関等との連携
・化学工学会環境部会への参加と運営参加——総会、拡大幹事会に 2 回、環境部会シンポジウム、秋季大会 ・その他なし
 - ④ 具体的な役務提供メニューの提示 ・改革委員会のインベントリー調査に対応（8 名提出）
 - ⑤ 顧客開拓 ・NEDO 調査研究に参加、その他特記事項なし◇

□

5. 2004 年度の活動（世話人 道木英之）

- 1) 活動の基本：主として、環境分野全般の情報交換と相互啓発の場とする。この場での発案による研究課題については、別途グループ内に研究会を編成して活動する。
お茶の水女子大学 LWWC 公開講座に環境グループから 8 名が SCE・Net 受託の 3 教科 90 時間中の 29 時間の講義を担当するなど、受託作業に深く係った 1 年であった。そのため、例会開催が中断したことにより、当グループの新たな展開への取り組みが停滞した。また、化学工学会が N E D O より受託した「環境技術と環境関連人材育成に関する調査研究」プロジェクトに 3 名、お茶の水女子大学 L W W C の科研費応募のための研究計画書作成に 4 名が参加し、「環境」

についての情報蓄積をすることができ、今後の活動に役立つことが期待される。

2) グループ構成員 年度初：13名（休会中 1名）、途中参加：1名、途中参加：1名 現在：13名

3) 例会開催（第30回～第33回 化学工学会応接室または会議室）

2004年4月20日（出席者8名）、5月18日（出席者5名）、9月14日（出席者7名）（11月16日欠席者多数のため中止）、2005年3月8日（出席者7名）

4) 主な活動

① 定期月例会開催と環境関連施設等の見学会

② 見学会

- ・2004年6月25日 武蔵工業大学横浜キャンパス見学 参加者7名（担当 堀中新一）
- ・2004年10月15日化学工学会環境部会北九州エコタウン見学・講演会に合流参加2名

③ 活動ポイントとなるプロジェクトに対応するワーキング・グループ化および活動支援

- ・お茶の水女子大学LWWCの公開講座「化学物質総合管理学特論1,2 化学物質管理と公害防止・環境保全」当グループから8名が参加して、実質的なWGとして活動した。
- ・お茶の水女子大学LWWCより、JST平成17年度基盤研究応募のための研究計画書作成の依頼を受け、有志4名で、研究課題名『環境分野における技術革新と社会変革にみる「応用化学工学」の展開に関する調査研究』の作成を行った。
- ・（前年からの継続）3名が化学工学会事務局員として参加した「環境技術と環境関連人材育成に関する調査研究」が終了して、NEDO報告書として2004年6月に発表された。

④ 産学官公的機関等との連携

- ・化学工学会環境部会は、新役員への移行があり、昨年度と運営、活動の様相が変化して、昨年度のような当方との接点が消えている。水環境プロセス分科会の見学会に参加したのみである。
- ・その他なし

⑤ 顧客開拓

- ・LWWC受講者募集に協力した。◇

6. 2005年度の活動（世話人 道木英之）

1) 概況：お茶の水女子大学LWWC公開講座に環境グループから8名がSCE・Net受託の3教科90時間中の29時間の講義を担当した。その中心は「環境（化学物質管理と公害防止・環境保全1,2）」の講座（前・後期）であり、平成17年度後期の講座は1月31日（火）をもって終了した。最終レポートの採点・評価は、前期が堀中・服部、後期を服部・植村各講師が担当した。受講者の出席率はまずまずで、本講座に対する評価（感想）は概ね好評であった。平成18年度の講義実施計画は、一部講義・講師の変更を行い、堀中世話役よりLWWC事務局に提出した。今年度の環境グループの活動はLWWC公開講座関連の講義および資料の作成などに深く係った1年であり、例会ではLWWC関連の議題が多く、メンバーの活動もLWWC公開講座関連が主体となった。

昨年末から環境グループの新たな展開への取り組みについて各メンバーによる意見交換を行った。その結果、例会は隔月程度の開催頻度とし、見学会を積極的に行うことにより、世間のニーズをより正確に把握する方向で進めることにした。見学先は環境関連企業を始め、研究所、大学、公共施設等、比較的気軽に訪問できる場所を選んだ。

さらに、環境グループのHPを充実させ、環境問題全般についての話題提供をより積極的に行った。また、化学工学会の環境部会とは、セミナー、見学会、各種行事に参加し、これまで以上の接点を持てるように進めていくことにした。

2) グループ構成員 年度初：13名（休止中1名）、新規参加：1名 年度末：14名（休止中2名）

3) 例会開催（第34回～第39回、第41回 化学工学会応接室または会議室）

2005年4月19日（出席者6名）、5月17日（出席者9名）、6月28日（出席者8名）7月20日（出席者7名）、10月6日（出席者4名）、11月10日（出席者5名）、2006年2月20日（理化学研究所会議室 出席者4名）、3月15日（出席者6名）

4) 主な活動

① 定期月例会開催と環境関連施設等の見学会

② 見学会

- ・2005年9月22日（木）メタルサイクル（株） 参加者10名（担当 谷本禎生）
- ・2005年12月6日（火）（株）神奈川食肉センター 参加者10名（担当 曾根邦彦）
- ・2006年2月20日（月）（独）理化学研究所 参加者8名（担当 道木英之）

③ 活動状況・方針について

主な活動状況、活動方針は以下の通り。

・お茶の水女子大学「化学物質総合管理学特論 1,2、化学物質管理と公害防止・環境保全 1,2」に当グループから8名が参加して、実質的なWGとして活動した。

[LWWC 前後期の評価と反省]：SCE・Net 担当分の内容に関しては概ね好評であった。

今後の方針は、お茶の水女子大学LWWC公開講座は環境関連（化学物質総合管理学特論 1,2、化学物質管理と公害防止・環境保全 1,2）については環境GのLWWC担当者により話し合いを行い取り進めることになった（堀中氏が世話役として取りまとめていく）。

・HPによる環境問題に関する話題の提供を行っているが、今後は話題提供の他に環境問題全般についての情報提供を行う。とくに、化学物質や地球温暖化に関する問題等について多数の人々に判かりやすく提供する。

・技術懇談会への参加

技術懇談会の出席者が減少傾向にある。我々からも外部者の参加を呼びかける。

・産学官公的機関等との連携

化学工学会環境部会は昨年度に新役員への移行があり、新部会長との連携も模索中であるが、運営、活動の様相が変化して当方との接点が多くなかったため、連携を強めるべく、学会が主催する各種行事、セミナー、見学会等に参加し、これまで以上の接点を持てるような方向で展

開する。

・顧客開拓関連/HP 掲載

見学会は積極的に進める。HP の充実。

・LWWC 受講者募集に協力 ・INCHEM 東京 2005 (東京ビックサイト) の学会ブース駐在に参加 ・HP の充実、各メンバーの話題提供により 1 回/月を目標に HP に記載 ・化学工学会主催のセミナーや見学会等に参加。

7. 2006 年度の活動 (世話人 曾根邦彦→国井宣明)

「メンバー全員参加による運営・活動によりグループの活性化を図る。」を活動方針として活動を開始したが、突然の世話人の交代により、9 月以降の活動が停滞したが、翌年 1 月より復旧した。

グループのメンバーは、現在 15 名であるが、例会及び見学会の参加が減少気味である。グループ目標の不鮮明さとメンバーの SCE・Net 外の活動状況が原因していると思われる。

以下に、期初の活動計画の項目とその実施概要を記載する。

1) 月例会開催および環境関連施設等の見学会の開催 (目標: 各 年 4 回程度)

月例会 (第 42 回～第 45 回 化学工学会応接室および会議室)

2006 年 6 月 23 日、11 月 7 日、2007 年 1 月 9 日、3 月 14 日

見学会

2006 年 5 月 18 日: (独)海洋研究開発機構 参加者 7 名 (担当 曾根邦彦)

2006 年 8 月 10 日: 東京二十三区清掃一部事務組合渋谷清掃工場 参加者 13 名
(担当 堀中新一)

2007 年 3 月 14 日: 東京都森ヶ崎水再生センター 参加者 14 名 (担当 国井宣明)

2) お茶の水女子大学 LWWC 公開講座への支援等

LWWC 公開講座の環境関連科目 (化学物質総合管理学特論 1,2、化学物質管理と公害防止・環境保全 1,2) の平成 18 年度以降の諸案件について、講師グループから要請を受けた場合には支援した。明治大学社会人講座・大学院講座での講義における環境関連科目について、発足しプロジェクトチームに当グループから数名が対応している。

3) 環境に関する研究課題の抽出とプロジェクト化

別途、組織の在り方についての検討を開始している。

4) グループ運営の担当

見学会担当: 曾根邦彦、2006 年 12 月から国井宣明

お茶の水女子大学 LWWC 公開講座担当: 堀中新一

化学工学会環境部会との連携: 曾根邦彦

追記 長年、当グループの運営、活動に貢献された曾根邦彦氏は、2008 年 10 月、赴任先において急逝された。ご冥福をお祈りする。